

## 授業づくりのための「FD 動画集」のご案内

FDの専門家団体である日本高等教育開発協会が「[授業づくりのためのFD動画集](#)」を作成し、公開しました。主な内容は以下のようになっています。

- 授業設計（項目別シラバス作成法、インストラクショナルデザイン）
- 講義法（授業における話し方、スライド活用法、発問法、私語対応法）
- アクティブラーニング（多様なアクティブラーニングの技法）
- 学習評価（多様性に配慮した評価、パフォーマンス評価とルーブリック、フィードバック）
- オンライン授業づくり（オンライン授業のデザイン、オンライン授業のアクティブラーニング）
- 個人面談のポイント（個人面談の環境づくり、個人面談での話し方）

本学教育開発・学習支援室 WEB サイトにもリンクをはっていますので、是非ご覧ください。

## 2025年度の新・共通教育開講において

すでに学部教授会などでも共有されている通り、社会の変化に対応しつつ本学の教学理念を体現できる学生を育成できるよう、2025年度より[共通教育が一新](#)されます。

	～2024：旧・教養教育	2025～：新・共通教育
目標	市民・社会人として必要な7つの能力の獲得	社会の変化に対応しつつ本学の教学理念を体現するための3つの能力の獲得
課程	「基礎教育科目群」「教養教育科目群」「キャリア教育科目群」の3群で編成	「たちばな Seeds（京都橘基盤科目群）」「教養教育科目群」「多文化交流科目群」「キャリア形成科目群」「スポーツ・健康科目群」の5群で編成

なかでも、1年次の全学必修科目である「知へのマインドセット」（前期）（オンデマンド型）は、2025年より「[たちばな Basis I・II](#)」（前期・後期）（ハイブリッド型）へと進化します。京都橘大学の教学理念である自立・共生・臨床の知を、[学部・学科の垣根を超えて、学生同士で学び合う科目](#)にできるよう授業設計の具体化が始められています。

現在、共通教育推進室にて開講に向けた具体的な準備が進められていますが、教育開発・学習支援室としてもより学習効果が高まるように支援をしていきます。今後、ご理解とご協力をお願いする場面もあろうかと存じます。よりよい教育と学習の実現のために尽力いたしますので、何卒よろしく願います。

## 2024年度 第1回 たちばな教育サロン 開催報告

### 「学生の学習意欲を引き出すための工夫」

2024年5月30日に、本年度第1回目の「たちばな教育サロン」を対面とオンラインを同時に行うハイフレックス形式で開催し、教職員含めて52名（対面20名、オンライン32名）の方にご参加いただきました。この数は過去最多であり、本テーマや事例報告に多くのご関心をお寄せいただいた結果と考えております。以下は、当日のポイントをまとめたものです。報告動画やスライド資料は、[教育開発・学習支援室WEBサイト「学内FD関連動画」](#)からご覧いただくことができます（パスワードはメール本文に記載させていただいております）。何かしらの参考になれば幸いです。

#### 報告1：学生に学ぶ授業づくり

経営学科 仙波亮一先生

担当するあらゆる授業で「学生にとって興味・関心のある知識・情報を、丁寧に伝える」ことを大切にしています。そのために、まず教材づくりでは、**出来るだけ学生の目線に合った事例**を紹介します。たとえば、大企業における正社員の事例などを話しても、学生はそのような経験がないのでイメージが湧きません。そこで、コンビニエンスストアの店員を事例にして解説することがあります。他にも、有給休暇の話をするときは、「アルバイトに有給休暇はあるか、ないか」という問いから始めて、実は「ある」のだという**“驚き”**を引き出してから**授業を進める**こともあります。

ただ、授業内容が本当に学生の目線に合っているかはわかりません。そこで、**学生に対して私が疑問に思ったことは、直接学生に尋ねる**ようにしています。「人見知りだという学生が多いようですが、実際にグループワークをするとちゃんと話せているのはなぜでしょうか？」と尋ねたときは「自分から初対面の人に話しかけることはできないけど、先生がグループや話す内容を指定してくれれば話せるんですよ」と答えてくれました。他にも日々、色々な質問をするようにしています。逆に、授業後には5~10人ぐらいの学生が質問に来てくれます。もっと学びたいという意欲的な学生もいますから、そういった学生には個別に対応して、**一歩進んだ議論を研究室でする**こともあります。

授業課題に対しても、基本的には全員個別にフィードバックをしています。人数が多いので大変ですが、コメントすべき内容は大体決まっています。**5パターンぐらいコメントを用意**しておき、それをコピー&ペーストし、時々相手に合わせてアレンジすることで効率的にフィードバックしています。

#### 報告2：学生の学習意欲を引き出すための教材活用と学習活動の工夫

看護学科 奥野信行先生

2回生必修科目「健康回復看護学Ⅱ」における周手術期の看護に関する講義の事例を紹介します。この授業実践の中で工夫していることは3つあります。

1つ目は、できるだけストーリーのある物語仕立ての講義にすることです。心理学者ブルーナーは、人は物事を理解するために「論理-科学的（実証）様式」と「物語的様式」を用いると提起しています。そこで、「**周手術期患者の事例紹介**」⇒「**知識の講義**」⇒「**実際の周手術期の動画の視聴**」⇒「**ケーススタディ（事例分析）**」という流れの繰り返しで授業を展開し、2つの様式をバランスよく使って理解を深められるようにしています。動画は、大学が契約しているものや、YouTubeにある既製品を活用しています。

2つ目は、事例内の現象を教材とした発問をし、学んだ知識を活用してもらうことです。ただ動画を見て終わりではなく、動画を見て気づいたことは何かを確認し、**既習内容を使って動画の状況を分析**します。このとき、**シンク・ペア・シェア**を使い、学生同士の学び合いを促すこともあります。ここで知識を実践に活用するコンフリクト（葛藤）が生まれ、学習意欲が高まります。

3つ目は、ずっと使ってもらえることを目指したレジュメ（配布資料：教材）作りです。授業中だけでなく、**実習でも使える、また卒業後も使えるような内容の濃いレジュメ**を作成し、配布しています。